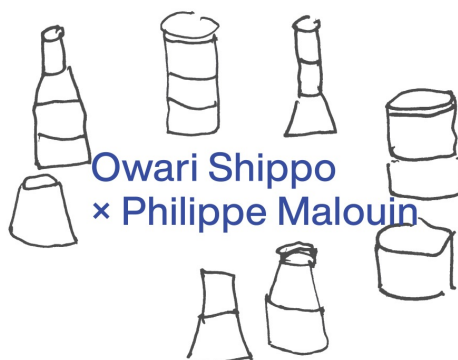


# CRAFT Tokai × TECH Project

2026 Tokyo Exhibition

Iga Kumihimo  
× Atang Tshikare

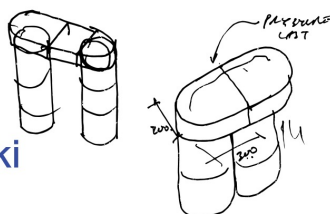


Owari Shippo  
× Philippe Malouin



Mino Yaki  
× David Caon

Seto Sometsuke Yaki  
× Eugene Kangawa  
EUGENE STUDIO



Arimatsu Narumi Shibori  
× Bethan Laura Wood



Mino Washi  
× Lanzavecchia + Wai

## Craft x Tech Tokai Project 2026 Tokyo Exhibition

東海の工芸産地と国際的クリエイターのコラボレーション  
新たな伝統工芸のかたちを初披露

会期：2026年5月30日(土) - 6月2日(火) 10:00-18:00

会場：kudan house (東京都千代田区九段北1-15-9)

プレス内覧会：5月29日(金) 10:30 - 12:00 (開場10:00)

※本プロジェクトに参加する産地事業者・クリエイターが在廊します。

## 東海の工芸産地と国際的クリエイターのコラボレーション展

### 「Craft x Tech Tokai Project 2026 Tokyo Exhibition」を歴史的建築「kudan house」にて開催

日本の工芸に宿る感性と、それに向き合う思考と手の力——“tech”の本質を問い直す実験的プロジェクト「Craft x Tech」。2026年5月30日（土）から6月2日（火）まで、登録有形文化財「kudan house（九段ハウス）」にて、コラボレーション第二弾を発表する「Craft x Tech Tokai Project 2026 Tokyo Exhibition」を開催します。

会場となる「kudan house」は、大正末期から昭和初期にかけて建てられた歴史的建築でありながら、現代的な文化活動を受け入れる場として更新され続けています。時間の蓄積を感じさせる建築空間と、現代的な表現へと昇華された伝統工芸の作品群が共存する本展は、継承と変容が静かに交差する空間体験として立ち上がります。

### 東海3県6産地と6組のクリエイターによる、新作コラボレーション作品を世界初公開

本展では、東海3県6産地と、国際的に活躍する6組のクリエイターによるコラボレーション作品を世界初公開します。美濃焼、美濃和紙、有松・鳴海絞、尾張七宝、瀬戸染付焼、伊賀くみひものそれぞれの産地が受け継いできた素材、技術、思想に対し、同時代のクリエイターたちが新たな視点で応答することで、伝統工芸の未来像を提示します。

美濃焼の不動窯とインダストリアルデザイナーのデイヴィッド・ケオンは、モジュール化された陶製パーツによって構成されたテーブルと照明のコレクションを発表します。美濃和紙のワラビペーパーカンパニーとデザインスタジオのランザヴェッキア+ワイは、伝統的な障子を再解釈した自立式のスクリーンを制作。また、有松・鳴海絞のスズサンとデザイナーのベサン・ローラ・ウッドは、染色技法の「絞り」や「括り」が生み出す色彩の表情を、光を纏う立体作品へと昇華させます。尾張七宝の安藤七宝店とデザイナーのフィリップ・マルアンは、銀閣寺の「向月台」から着想を得たミニマルな象徴性を建築的に構成し、スタッキングボックスとして再構築。瀬戸染付焼の眞窯と美術家の寒川裕人（ユージーン・スタジオ）は、染付技法「濃み（ダミ）」の筆致やゆらぎを通して、作家と職人の日常や創作のシーンが交差する、椅子と茶器のコレクションを展開します。さらに、伊賀くみひもの糸伍とデザイナー／アーティストのアタン・ツィカレは、組紐の緻密な構造と色彩表現を生かし、火山を思わせる生命力に満ちた光のオブジェを創出します。

特別展示として、アート&デザインスタジオTangentによる自主研究プロジェクトを同会場にて展開します。また、2026年5月19日（火）から6月3日（水）まで、庭のホテル 東京をサテライト会場として、東海6産地の工芸品を紹介する展示も開催します。

本プロジェクトは、今秋ロンドンへの巡回展を予定しており、日本の伝統工芸の新たな可能性を世界へ発信します。

#### ■ Craft x Tech Tokai Project 2026 Tokyo Exhibition

会期：2026年5月30日（土）－ 6月2日（火） 10:00-18:00

会場：kudan house（東京都千代田区九段北1-15-9）

入場料：前売券 1500円（2026年5月29日まで） | 当日券 2000円 ※日時指定予約制

チケット：Art Passにて前売券を販売中 <https://art-ap.passes.jp/user/e/crafttech/>

#### ■ プレス内覧会 | 5月29日(金) 10:30 - 12:00（開場10:00）

本プロジェクトに参加する産地事業者・クリエイターが在廊します。

プレスカンファレンスの後、ギャラリートourを開催します。

参加お申し込み：<https://forms.gle/vsTMGhYSzyPJULKx6>

HOW INC. e-mail：[pressrelease@how-pr.co.jp](mailto:pressrelease@how-pr.co.jp) Tel：03 5414 6405

## Curatorial Director's Message

Craft x Techは、「Craft x Tech Tokai Project」を通じて第二章へと進みます。

二度目の取り組みとして本プロジェクトに臨む私たちは、前回以上の好奇心を携えて再びこの地に戻ってきました。

第一弾の東北地域と同様に、今回のコラボレーションの舞台となる東海地域もまた、私たちにとって特別な奥行きを持つ場所でした。私たちが問いを携えて訪れるはるか以前から、産業の歴史と職人の知が何世紀にもわたり対話を重ねてきた土地だからです。

そして今回、私が予想していなかったのは、各コラボレーションが当初の想定を大きく超えて展開していったことでした。生まれた成果はしばしば驚きに満ち、同時に常に、当初私たちの誰もが想像していた以上のものとなっています。デザイナーと職人の協働が進む過程で、経験と交流を通じた信頼関係が育まれていくのを目にできることも、このプロジェクトの大きな意義だと感じています。

さらに、これらの成果が世界各地で発表されていくことを思うと、この特別なプロジェクトを支える大きな共同作業に、私たちは高揚感と感動、そして誇りを覚えます。関わってくださったすべての皆さまに心より御礼申し上げます。

とりわけ、東京を拠点とする英樹とチームの皆さんに、心より感謝します。

マリア・クリスティーナ・ディデロ

### ■ Craft × Tech キュラトリアルディレクター

マリア・クリスティーナ・ディデロ | Maria Cristina Didero

デザインキュレーター・コンサルタント・作家。ミラノを拠点に国際的に活動し、数多くの展覧会のキュレーションを手掛け、クリエイターやブランドとのプロジェクトを重ねる。2022年には世界で最も有名なコレクター向けデザインフェア「Design Miami/」のキュレーションディレクターを務めた。

[www.salonemilano.it/en/autori/maria-cristina-didero](http://www.salonemilano.it/en/autori/maria-cristina-didero)

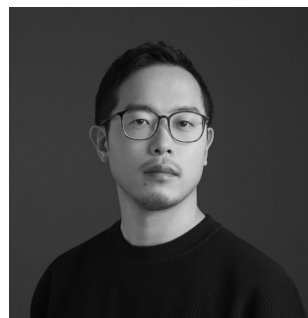


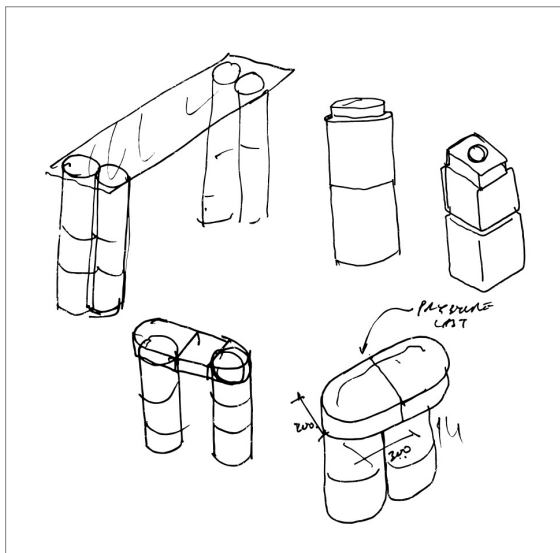
### ■ Craft × Tech ファウンダー / クリエイティブディレクター

吉本英樹 | Hideki Yoshimoto

デザイナー・東京大学先端科学技術センター特任准教授。2015年にTangentをロンドンで設立。デザインとエンジニアリングの発展的な融合を得意とし、世界的なラグジュアリーブランドに多くのデザインやコンセプトを提供するほか、テクノロジー起点の新規事業開発から街づくりまで、幅広い領域のプロジェクトに携わる。

[www.tngnt.uk](http://www.tngnt.uk)



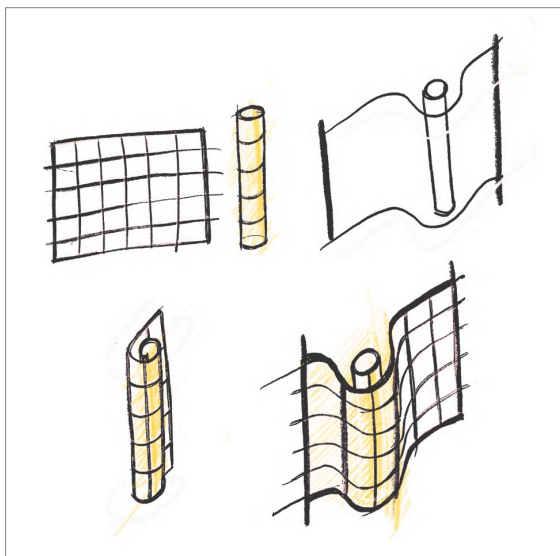


**美濃焼（岐阜県）**

不動窯 伊藤洋平 × デイヴィッド・ケオン

**Title : FUSHI**

美濃焼は、多様な技法や様式を内包しながら発展してきた、日本を代表する焼き物です。インダストリアルデザイナーのデイヴィッド・ケオンは、美濃焼が持つ柔軟性と拡張性に焦点を当て、モジュール化された陶製パーツによるテーブルと照明のコレクションを制作しました。各モジュールは、精密な寸法管理のもとで設計され、組み替えることで多様なスケールや用途へと展開。表面には織部釉特有の奔放なゆらぎが現れ、焼成時の反応によって一つひとつ異なる個体へと変化します。工業的な「完全性」と、釉薬が生みだす予測不能な「偶然性」。その緊張感の中で、デイヴィッド・ケオンは家具としての美濃焼の新たな可能性を提示します。

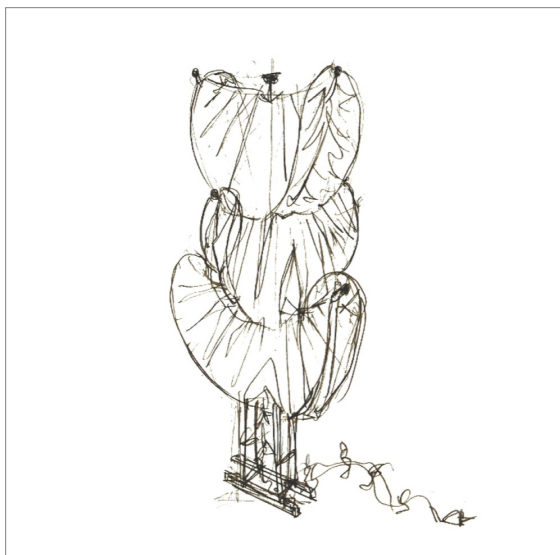


**美濃和紙（岐阜県）**

ワラビペーパーカンパニー 千田崇統 × ランザヴェッキア+ワイ

**Title : Grid Unwoven**

美濃和紙は、1300年以上の歴史を持ち、薄さや丈夫さ、美しさを併せ持つことを特徴としています。デザインスタジオのランザヴェッキア+ワイは、和紙の質感や光の透過性、格子構造に着目し、伝統的な障子を再解釈した自立式のスクリーンを制作しました。和紙職人・千田崇統と開発した手漉き和紙では、繊維を縦方向へと流しながら堆積させることで、水が重力によって流れ落ちる滝のような表情を再現。背後のLEDトーンからは、プログラムされた光が差し込み、紙漉きの痕跡や素材のゆらぎを静かに浮かび上がらせます。ランザヴェッキア+ワイは、伝統的な障子の構造をゆるやかに解体し、美濃和紙とテクノロジーが交差する空間を創出します。



**有松・鳴海絞（愛知県）**

スズサン 村瀬弘行 × ベサン・ローラ・ウッド

**Title : Kataginu**

有松・鳴海絞は、400年以上の歴史を持ち、100種類にも及ぶ絞り染めの技法を今に伝えています。デザイナーのベサン・ローラ・ウッドは、染色技法の「絞り」や「括り」が生みだす色彩の表情に惹かれ、立体的な折り構造を用いた光のオブジェを制作しました。シェードの表面には、2色の染料が混ざり合うことで生まれる、偶発的な色の重なりが閉じ込められています。立体的な造形は、日本の伝統装束「肩衣」の誇張された肩の造形から着想を得たもので、ベサン・ローラ・ウッドならではの、鮮やかな色彩感覚とユニークなフォルムが美しく融合。有松・鳴海絞は、衣服にとどまらず、照明へと姿を変えながら住空間へと拡張します。



## 尾張七宝（愛知県）

安藤七宝店 安藤重幸 × フィリップ・マルアン

Title : Kasane

尾張七宝は、金属の素地に色彩豊かなガラス質の釉薬を施し、繊細な金属線によって文様を描き出す「有線七宝」の装飾性を特徴としています。デザイナーのフィリップ・マルアンは、京都・銀閣寺の庭園にある砂盛り「向月台」にインスピレーションを得て、スタッキング式のボックスシリーズを制作しました。切頭円錐の静かな造形や、静謐な力強さを内包するミニマルな象徴性に惹かれ、その幾何学的なフォルムを建築的に構成。表面に施されたランダムな点描状のパターンは、繊細な手仕事の痕跡を浮かび上がらせています。尾張七宝は、フィリップ・マルアンの美意識を通じて、装飾工芸から機能を備えた現代的なオブジェクトへと再構築されます。



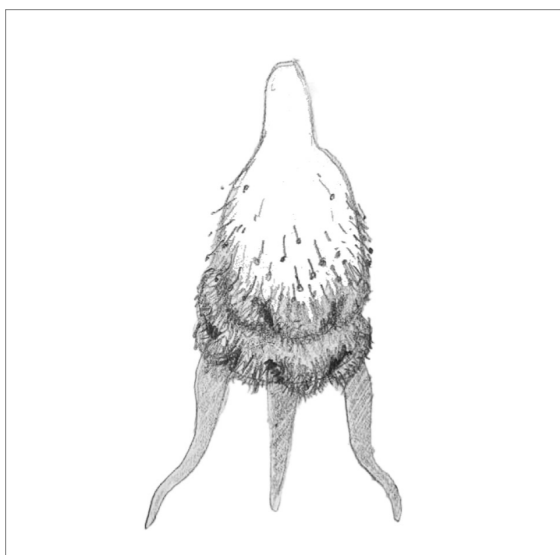
## 瀬戸染付焼（愛知県）

眞窯 加藤真雪 × 寒川裕人（ユージーン・スタジオ）

Title : Chair in Japanese Nuki and Dami style,

The Everyday at the Atelier (Standard / Child Scale)

瀬戸染付焼は、白磁に「濃み（ダミ）」と呼ばれる筆技法で絵付けを施し、繊細な濃淡を表現する焼き物です。美術家の寒川裕人（ユージーン・スタジオ）は、絵付けによる筆致の豊かさや、直線と曲線が共にあるしなやかさに着目し、それらが共存する椅子と茶器をモチーフとしたコレクションを展開します。モチーフの原型には、ユージーン・スタジオのアトリエで制作・日常使われている木組みの椅子や、眞窯の加藤真雪が陶磁器意匠研究所での研究生時代に手がけ、現在も作り続けている茶器のフォルムが由来となっており、それぞれの営みからインスピレーションが自然に立ち上がりました。瀬戸染付焼は食器からタイル、家具へと展開され、作家と職人の日常や創作のシーンが交差する風景を生み出します。



## 伊賀くみひも（三重県）

糸伍 松田智行 × アタン・ツィカレ

Title : Yamollo

伊賀くみひもは、複数の糸を組み上げることで生まれる立体的な構造と、豊かな色彩表現を特徴としています。デザイナー／アーティストのアタン・ツィカレは、組紐の緻密な構造と素材の存在感に着目し、内包された力が立ち現れる瞬間を、火山や炉の炎、身体に宿る精神といった多層的なイメージを通して、光のオブジェとして表現します。噴火する瞬間のような力強いフォルムや、大地を想起させる色彩のグラデーション、頂部に灯る光と幾重にも垂れ下がる組紐によって、火山を思わせる有機的な造形を生み出しました。アタン・ツィカレの原初的なインスピレーションと伊賀くみひもの装飾性が結びつき、生命力を宿した立体作品へと昇華されています。

# Satellite Exhibition

庭のホテル 東京にて、東海3県6産地の工芸品を紹介するサテライト展示を開催

2026年5月19日(火) – 6月3日(水) | 庭のホテル 東京

本展会場 kudan house (九段ハウス) の近隣に位置する、庭のホテル 東京 (東京都千代田区) の1Fロビーにて、「Craft x Tech Tokai Project」に参画する東海3県6産地の事業者による工芸品のサテライト展示を開催いたします。庭のホテル 東京は、「ここに、庭を。」をコンセプトに、喧騒から離れた隠れ家のような空間で自然と安らぎを感じていただけるホテルです。kudan houseでの展示とあわせて、ぜひお立ち寄りください。

## 【開催概要】

会期：2026年5月19日(火) – 6月3日(水)

会場：庭のホテル 東京 1Fロビー (〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-1-16)

入場：無料

---

## Exhibition Overview

タイトル：Craft x Tech Tokai Project 2026 Tokyo Exhibition

会期：2026年5月30日(土) – 6月2日(火) 10:00-18:00

会場：kudan house (東京都千代田区九段北1-15-9)

入場料：前売券 1500円 (2026年5月29日まで) | 当日券 2000円 ※日時指定予約制

チケット：Art Passにて前売券を販売中 <https://art-ap.passes.jp/user/e/crafttech/>

Organized by：株式会社Tangent Japan

Co-visionary Partner：Lexus International、一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン

Edition Partner：朝日インテック株式会社、株式会社 サンキュウ・ウィズ

Exhibition Partner：kudan house

Hotel Partner：庭のホテル 東京

Founder, Creative Director：吉本英樹

Curatorial Director：マリア・クリスティーナ・ディデロ

公式サイト：[www.craft-x-tech.com](http://www.craft-x-tech.com)

Instagram：[www.instagram.com/craft.x.tech](https://www.instagram.com/craft.x.tech)

お問い合わせ：[info@craft-x-tech.com](mailto:info@craft-x-tech.com)

---

## General Inquiries (一般お問い合わせ)

Craft x Tech 事務局 e-mail：[info@craft-x-tech.com](mailto:info@craft-x-tech.com)

## Press Contact (プレス関係)

本件に関するご取材、撮影、ご掲載に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

HOW INC. e-mail：[pressrelease@how-pr.co.jp](mailto:pressrelease@how-pr.co.jp) Tel：03 5414 6405

Press Kit：[Download](#)